

Oracle9i Developer Suite for Microsoft Windows NT/2000/XP

リリース・ノート

リリース 2 (9.0.2)

2003 年 6 月

部品番号 : J07621-02

目次

製品の名称	3
動作要件	3
Oracle9i Developer Suite 日本語環境での構成	4
プログラム・コンポーネントの日本語環境での構成	4
Oracle9i Developer Suite Patch Set	4
Oracle9i Forms Developer の日本語ドキュメント	4
Oracle9i Reports Developer の日本語ドキュメント	4
Oracle9i Designer/Software Configuration Manager	4
Oracle9i Warehouse Builder	4
Oracle9i Warehouse Builder 9.0.3 へのパッチの適用	4
Oracle9i Warehouse Builder 9.0.2 へのパッチの適用	5
Discoverer ワークブックの日本語ファイルの提供	5
Workflow と連携時に必要なパッチ	6
Oracle9i JDeveloper	7
Oracle9i Discoverer	7
Oracle9i Discoverer Administrator の日本語版オンラインヘルプ	8
Oracle9i Discoverer Desktop のチュートリアル	8
Oracle9i Discoverer のサンプル・ワークブック	8
既知の問題	8
インストールの問題	9
Windows System Files のインストールの実行	9
J2EE 開発版のインストールで設定されていない J2EE コンテナ	9
Oracle Net Configuration Assistant の実行の失敗	9
ファイルへの書き込みエラー (Windows のみ)	10
インストール時のパフォーマンス (オプション)	10
Oracle9i Developer Suite Documentation Library のインストール	10
英語版ドキュメントのインストール	10
サイレント・インストールと非対話型インストール	10
プリインストール	10
レスポンス・ファイルのパラメータ	12
rwaddirpage.sql を実行する前の手順	12
削除の問題	13
Oracle Universal Installer では全ファイルは削除されない	13
Oracle9i JDeveloper の問題	13
SCM: Version History Viewer を使用してマージ操作を実行できない (Bug2227925)	13
Oracle9i Forms Developer の問題	13
Oracle9i Reports Developer の問題	13



Oracle は登録商標です。Oracle9i、OracleMetaLink、Oracle Store、Oracle8i、Oracle9iAS Discoverer、PL/SQL および SQL*Plus は、オラクル社の商標または登録商標です。その他の名称は、各所有者の商標です。

Oracle9i Designer の問題	13
オンラインヘルプの補足事項	13
オンラインヘルプに記載されていない Form Generator 作業環境について	14
Oracle9i Software Configuration Manager の問題	14
従属ユーザーがリポジトリに接続すると、統計値情報ダイアログが表示される (Bug1361307)	14
Dependency Manager: Forms の依存性の構築に失敗する (Bug2247364)	15
Oracle9i Warehouse Builder の問題	15
Oracle9i Discoverer の問題	15
Oracle9i Business Intelligence Beans の問題	15
Oracle9i XML Developer's Kit	15
動作要件とシステム要件	15
一般的な問題とその対処方法	16
ドキュメントの記載内容の誤り	16
アクセス権利の問題 (Windows のみ)	16
自動実行の無効化	16
access_setup.bat の実行	16
補助テクノロジの使用 (Windows のみ)	16
Oracle Net Configuration Assistant にアクセスできない	16
製品の削除	17
製品 CD-ROM からの Oracle Universal Installer の使用	17
コンポーネントを削除できない	17

このドキュメントは、Oracle9i Developer Suite リリース 2 (9.0.2) と、その機能の記載内容との相違点を要約したものです。

関連項目： Oracle9i Developer Suite の各コンポーネントのリリース・ノートも参照してください。

リリース・ノートとその他のドキュメントの最新版については、次のサイトにある Oracle Technology Network を参照してください。

<http://otn.oracle.co.jp>

注意： ORACLE_HOME は、特に指定のない限り、Oracle9i Developer Suite をインストールする Oracle ホームの名前およびディレクトリを示します。

製品の名称

Oracle9i Developer Suite (Oracle9iDS) は、旧 Oracle Internet Developer Suite から名称変更されました。

Windows の場合、Oracle9i Developer Suite リリース 2 には次のコンポーネントが含まれます。

- Oracle9i JDeveloper
- Oracle9i Forms Developer (旧 Oracle Developer の Forms)
- Oracle9i Designer
- Oracle9i Software Configuration Manager (旧 Oracle Repository)
- Oracle9i Warehouse Builder
- Oracle9i Discoverer Administrator (旧 Oracle Discoverer Administration Edition。 Oracle9i Discoverer Desktop を含む)
- Oracle9i Reports Developer (旧 Oracle Developer の Reports)

ただし、Oracle9i Developer Suite リリース 2 は、Windows 95/98/ME ではサポートされていません。

UNIX の場合、Oracle9i Developer Suite リリース 2 には次のコンポーネントが含まれます。

- Oracle9i JDeveloper
- Oracle9i Forms Developer (旧 Oracle Developer の Forms)
- Oracle9i Reports Developer (旧 Oracle Developer の Reports)

動作要件

MS Windows プラットフォーム上のこのリリースの Oracle9i Developer Suite Release 2 では、次の機能はサポートされません。プログラムがインストールされている場合やドキュメントに記述がある場合でもその機能の使用はサポートされませんのでご注意ください。

- TranslationHub (Oracle9i Forms および Oracle9i Reports のサブコンポーネント)

動作要件に関する最新の情報は、次のサイトで確認できます。

<http://www.oracle.co.jp/products/system/index.html>

Oracle9i Developer Suite 日本語環境での構成

プログラム・コンポーネントの日本語環境での構成

Oracle9i Developer Suite Patch Set

Oracle9i Developer Suite Patch Set には、 Oracle9i Forms、 Oracle9i Reports、 Oracle9i Discoverer に対する修正が含まれます。

Patch Set の適用に関しては、 Oracle9i Developer Suite Patch Set CD に含まれるリリース・ノートを参照してください。

Oracle9i Forms Developer の日本語 ドキュメント

Oracle9i Forms Developer のドキュメントを次の手順に従ってインストールしてください。この手順では、 製品に同梱される Oracle9i Developer Suite Release 2 (9.0.2) のドキュメント CD を使用します。

1. ドキュメント CD に含まれている次のディレクトリを %ORACLE_HOME%\forms90\ ディレクトリに上書きコピーします。

JDoc\Win\forms90\doc

Oracle9i Reports Developer の日本語 ドキュメント

Oracle9i Reports Developer のドキュメントを次の手順に従ってインストールしてください。この手順では、 製品に同梱される Oracle9i Developer Suite Release 2 (9.0.2) のドキュメント CD を使用します。

1. ドキュメント CD に含まれている次のディレクトリを %ORACLE_HOME%\reports\ ディレクトリに上書きコピーします。

JDoc\Win\reports\doc

Oracle9i Designer/Software Configuration Manager

Oracle9i Designer および Oracle9i Software Configuration Manager を使用するためには、 Oracle9i Developer Suite をインストール後、 パッチを適用する必要があります。 このパッチは Oracle9i Developer Suite でインストールされる Oracle9i Designer/Software Configuration Manager に対してのみ適用できます。

このパッチは製品に同梱される Oracle9i Developer Suite Release 2 (9.0.2) JP Update CD に含まれています。

パッチの適用手順は、次のとおりです。

1. 稼働中の製品がある場合は、すべて終了させてください。
2. Oracle9i Developer Suite Release 2 (9.0.2) JP Update CD の次のファイルを起動します。

Designer_SCMy9.0.2.4\Setup.exe

Oracle Universal Installer が起動します。 インストール先として、 Oracle9i Developer Suite をインストール済の Oracle Home を指定します。

以降、 インストーラの指示に従ってインストールしてください。

3. Oracle Universal Installer によるインストール作業が完了したら、 さらに JP Update CD の次のディレクトリ配下のファイルを Oracle Home の該当ディレクトリに上書きコピーしてください。

Designer_SCMyAdditional

リポジトリのインストールやアップグレード作業は、 上記パッチ適用後に行うようにしてください。

Oracle9i Warehouse Builder

Oracle9i Warehouse Builder は、 Oracle9i Warehouse Builder 9.0.3 を導入されることを推奨します。

Oracle9i Warehouse Builder 9.0.3 は Oracle9i Warehouse Builder 9.0.3 CD-ROM からインストールを行います。

Oracle9i Warehouse Builder 9.0.3 へのパッチの適用

Oracle9i Warehouse Builder 9.0.3 (以下、 OWB) を使用するためには、 インストール後 OWB 9.0.3.36.3 Patch を適用する必要があります。 このパッチは OWB 9.0.3.33.0 または OWB 9.0.3.35.0 に対してのみ適用できます。 このパッチは Oracle9i Developer Suite Release 2 (9.0.2) JP Update CD に含まれています。

パッチの適用手順は、次のとおりです。

- 稼働中の OWB 製品がある場合は、すべて終了させてください。
- JP Update CD の次のファイルをローカルのテンポラリ・ディレクトリ（例：C:\\$OWBPatch）に展開します。必ずフォルダ名を使用して展開してください。

Warehouse_Builder\9.0.3.36.3\p2464829_902_GENERIC.zip

- 次の手順に従い、インストールを開始します。

- 9iPatchInst.bat.txt ファイルを編集します。2行目のコメントを解除します。

```
set OWB_HOME=d:\$OWBHome
```

「d:\\$OWBHome」部分を OWB をインストールした Oracle Home に設定し、保存します。

- ファイル名「9iPatchInst.bat.txt」を「9iPatchInst.bat」にリネームします。
- コマンド (MSDOS) プロンプトから cd (change directory) コマンドを使用して 2 で展開した ディレクトリ (C:\\$OWBPatch) に移動します。
- 9iPatchInst.bat を実行します。必要に応じ、以下のようにログを取得してください。
9iPatchInst.bat > Install.log
- ログを参照し、エラーがないことを確認してください。

※このパッチでは、Workflow 使用時の問題を解消するためのファイルが含まれています。Workflow Queue Listener 使用時には、展開時に作成されるディレクトリ「extras」ディレクトリ内のファイルを使用してください。

Oracle9i Warehouse Builder 9.0.2 へのパッチの適用

Oracle9i Warehouse Builder（以下、OWB）を使用するためには、Oracle9i Developer Suite をインストール後、OWB 9.0.2.66.0 Patch を適用する必要があります。製品のインストールに関しては、『Oracle9i Developer Suite for Windows and UNIX インストレーション・ガイド、リリース 2 (9.0.2)』および『Oracle9i Warehouse Builder 構成ガイド、リリース 9.0.2』を参照してください。このパッチは Oracle9iDS でインストールされる OWB 9.0.2.62.3 に対してのみ適用できます。このパッチは製品に同梱される Oracle9i Developer Suite Release 2 (9.0.2) JP Update CD に含まれています。

パッチの適用手順は、次のとおりです。

- 稼働中の OWB 製品がある場合は、すべて終了させてください。

- 次の手順に従い、インストールを開始します。

- Universal Installer を起動します。「スタート」⇒「プログラム」⇒「Oracle Installation Products」⇒「Universal Installer」を選択することにより起動できます。

- 「インストール済の製品」をクリックします。

- OWB のバージョンが 9.0.2.62.3 であることを確認し、閉じてください。

(OWB のバージョンが 9.0.2.62.3 ではない場合、パッチインストールを続行することはできません。)

- 「次へ」をクリックし、「ファイルの場所」画面に移動します。

- ソースの指定で、JP Update CD の products.jar を指定します。

Warehouse_Builder\9.0.2.66.0\Disk1\stage\products.jar

- インストール先は、OWB をインストールしていた既存の Oracle ホームを指定します。

- 「次へ」「インストール」をクリックし、インストール処理を続行します。

- 既に OWB ランタイムを設定済の場合、「OWB Runtime Assistant」を使用して、アップグレードを実施してください。

Discoverer ワークブックの日本語ファイルの提供

Warehouse Builder メタデータ・アクセス用の Discoverer ワークブックの日本語版を提供しています。ファイルは製品に同梱される Oracle9i Developer Suite Release 2 (9.0.2) JP Update CD に含まれています。この機能の詳細は、『Oracle9i Warehouse Builder ユーザーズ・ガイド、リリース 9.0.3』の第 11 章「Discoverer ワークブックを使用したメタデータとランタイムのレポート」を参照してください。

Oracle9i Warehouse Builder 9.0.3 用

Warehouse_Builder¥Workbook¥9.0.3

Oracle9i Warehouse Builder 9.0.2 用

Warehouse_Builder¥Workbook¥9.0.2

Workflow と連携時に必要なパッチ

Oracle Enterprise Manager2.2 へのパッチの適用

Oracle Workflow 2.6.0 および Oracle Enterprise Manager 2.2 を使用するためには、Oracle Enterprise Manager に対してパッチを適用する必要があります。このパッチは製品に同梱される Oracle9i Developer Suite Release 2 (9.0.2) JP Update CD に含まれています。

パッチの適用手順は、次のとおりです。

1. Oracle Management Server (以下、OMS) が稼働中の場合は、終了させてください。複数の OMS が同じリポジトリを使用している場合、すべてに対してパッチを適用する必要があります。
2. JP Update CD の次のファイルをローカルのテンポラリ・ディレクトリに展開します。OMS の配置 プラットフォームによりファイル名が異なります。

Warehouse_Builder¥Workflow¥OEM2.2¥

Windows システムの場合 : p1799032_220_WINNT.zip

Windows システム以外の場合 : p1799032_220_SOLARIS.zip

3. OMS がインストールされている Oracle Home の該当ディレクトリに上書きコピーしてください。

Oracle Workflow へのパッチの適用

Oracle Workflow を使用するためには、次のパッチを適用する必要があります。『Oracle9i Warehouse Builder 構成ガイド、リリース 9.0.2』の第 2 章に従い Oracle Workflow Server をインストール・設定後、適用してください。このパッチは Workflow Server 2.6.0 および 2.6.1 に対して適用されます。このパッチは製品に同梱される Oracle9i Developer Suite Release 2 (9.0.2) JP Update CD に含まれています。

パッチの適用手順は、次のとおりです。

以下、「\$ORACLE_HOME¥wf」ディレクトリを \$WF_TOP とします。

1. Workflow Server ファイルのバックアップ

パッチの適用前に Workflow Server のバックアップを行います。次のファイルおよびディレクトリを適当な場所にコピーしてください。

- a. \$WF_TOP 以下すべて
- b. \$ORACLE_HOME¥bin 以下の Workflow 実行ファイルすべて
(ファイル名の先頭に「wf」がつくファイルはすべて該当します。)
- c. \$ORACLE_HOME¥jlib 以下の Workflow 使用ファイルすべて
(ファイル名の先頭に「wf」がつく拡張子「.jar」のファイルはすべて該当します。)

2. パッチの適用を行います。

- a. JP Update CD にある次の 2 つのファイルをローカルのテンポラリ・ディレクトリ (以下 \$patch とする) に展開します。

Warehouse_Builder¥Workflow¥WF262_GENERIC.zip

Windows システムの場合 : Warehouse_Builder¥Workflow¥WF262_WINNT.zip

Windows システム以外の場合 : Warehouse_Builder¥Workflow¥WF262_SOLARIS.zip

- b. 「\$patch¥admin」にあるファイルで「\$WF_TOP¥admin」ディレクトリにないファイルをすべてコピーします。
- c. 「\$patch¥admin¥sql」ディレクトリのすべてのファイルを「\$WF_TOP¥admin¥sql」に上書きします。
- d. 「\$patch¥demo」ディレクトリのすべてのファイルを「\$WF_TOP¥demo」に上書きします。
- e. 「\$patch¥sql」ディレクトリのすべてのファイルを「\$WF_TOP¥sql」に上書きします。
- f. 「\$patch¥res」ディレクトリのすべてのファイルを「\$WF_TOP¥res」に上書きします。

- g. Oracle8i をご使用の場合：「\$patch¥Java¥oracle¥apps¥fnd¥wf¥jar」ディレクトリのすべての JAR ファイルを「\$WF_TOP¥java¥oracle¥apps¥fnd¥wf¥jar」に上書きします。
 - Oracle9i をご使用の場合：「\$patch¥Java¥oracle¥apps¥fnd¥wf¥jar」ディレクトリのすべての JAR ファイルを「\$ORACLE_HOME¥jlib」に上書きします。
 - h. 「\$patch¥Java¥oracle¥apps¥fnd¥wf¥WFTest.class」ファイルを「\$WF_TOP¥Java¥oracle¥apps¥fnd¥wf」に上書きします。
 - i. (UNIX の場合) 「\$patch¥<db_release>¥lib」ディレクトリのすべてのファイルを「\$WF_TOP¥lib」に上書きします。
 - j. (UNIX の場合) 「\$patch¥<db_release>¥include」ディレクトリのすべてのファイルを「\$WF_TOP¥include」に上書きします。
 - k. 「\$patch¥<db_release>¥bin」ディレクトリのすべてのファイルを「\$ORACLE_HOME¥bin」に上書きします。
 - l. 「\$patch¥install¥WorkflowCA.jar」ファイルを「\$WF_TOP¥install¥WorkflowCA.jar」に上書きします。
 - m. Web Server を再起動してください。
3. Workflow Configuration Assistant (以下、Workflow CA) を起動して、Workflow Server のアップグレードを実施します。
- a. 「\$WF_TOP¥install¥wfinstall」(Windows システムの場合は wfinstall.bat) ファイルを起動します。
 - b. Workflow CA の画面が表示されます。必要な情報を入力し、「Install Option:」では「Upgrade」を選択します。「Submit」ボタンをクリックするとインストールが開始されます。
 - c. このパッチでは日本語環境が提供されています。インストールするために、再度 WorkflowCA を起動します。必要な情報を入力し、「Install Option:」では「Add language」を選択します。「Language Selection」では「JA」を選択します。「Submit」ボタンをクリックするとインストールが開始されます。
 - d. 日本語の画面に切り替えるためには、Workflow Monitor で設定を変更してください。

Oracle9i JDeveloper

Oracle9i JDeveloper 9.0.3 を利用するためには、Oracle9i Developer Suite のインストール CD とは別の Oracle9i JDeveloper 9.0.3 の CD でインストールする必要があります。インストール方法の詳細は、『Oracle9i JDeveloper 9.0.3 インストレーション・ガイド』を参照してください。

また、Oracle9i JDeveloper 9.0.2 を利用するためには、Oracle9i Developer Suite をインストール後、パッチを適用する必要があります。このパッチは Oracle9i Developer Suite でインストールされる Oracle9i JDeveloper に対してのみ適用できます。

このパッチは製品に同梱される Oracle9i Developer Suite Release 2 (9.0.2) JP Update CD に含まれています。

パッチの適用手順は、次のとおりです。

1. 稼働中の製品がある場合は、すべて終了させてください。
2. Oracle9i Developer Suite Release 2 (9.0.2) JP Update CD の次のディレクトリ配下のファイルを Oracle Home の該当ディレクトリに上書きコピーしてください。

JDeveloper¥Additional

この作業により日本語ドキュメントもインストールされます。

Oracle9i Discoverer

Oracle9i Discoverer Administrator および Desktop を使用するためには、Oracle9i Developer Suite をインストール後、パッチを適用する必要があります。

このパッチは、Oracle9i Developer Suite Release 2 Patch Set CD の中に含まれています。インストール手順は、Patch Set CD に含まれているリリース・ノートを参照してください。

このリリースの Discoverer Administrator 9.0.2.53 を使用することで、以前のバージョンで作成された End User Layer (EUL) をアップグレードできます。EUL をアップグレードするには、Discoverer Administrator 9.0.2.53 を起動して、EUL の所有者で接続します。EUL のアップグレードが必要だと認

識されると、自動的に確認メッセージが表示されるので、画面上の指示に従って EUL をアップグレードします。その際、以前の EUL のバックアップを取得しておくことをお薦めします。

EUL がアップグレードされた後、エンド・ユーザーが Discoverer Desktop、Discoverer Plus、または Discoverer Viewer のリリース 9.0.2.53 を使用して EUL に接続する場合、特別なアップグレード作業は必要ありません。

Oracle9i Discoverer Administrator の日本語版オンラインヘルプ

Oracle9i Developer Suite Release 2 (9.0.2) のドキュメント CD には、Oracle9i Discoverer Administrator の日本語版オンラインヘルプが収録されています。

<CD-ROM>¥JDoc¥Win¥Discoverer¥help¥ に含まれるファイルを <ORACLE_HOME>¥discoverer902¥demo¥ ディレクトリの配下に ja ディレクトリを作成してコピーして利用してください。

Oracle9i Discoverer Desktop のチュートリアル

Oracle9i Developer Suite Release 2 (9.0.2) のドキュメント CD には、Oracle9i Discoverer Desktop のチュートリアルが収録されています。

<CD-ROM>¥JDoc¥Win¥Discoverer¥tutorial¥ に含まれるファイルを <ORACLE_HOME>¥discoverer902¥demo¥ ディレクトリにコピーして利用してください。

Oracle9i Discoverer のサンプル・ワークブック

Oracle9i Developer Suite Release 2 (9.0.2) のドキュメント CD には、Oracle9i Discoverer のサンプル・ワークブックが収録されています。

1. <CD-ROM>¥JDoc¥Win¥Discoverer¥sample¥ に含まれる次のファイルを %ORACLE_HOME%¥discoverer902¥ ディレクトリにコピーして利用してください。

eu15ja.eex

2. <CD-ROM>¥JDoc¥Win¥Discoverer¥sample¥ に含まれる次のファイルを %ORACLE_HOME%¥discoverer902¥demo¥ ディレクトリにコピーして利用してください。

vidaf5ja.dis

vidst5ja.dis

Workbook Management.dis

Query Statistics.dis

EUL Data Definition.dis

Lineage.dis

既知の問題

この項は、次の部分に分かれています。

- [インストールの問題](#)
- [削除の問題](#)
- [Oracle9i JDeveloper の問題](#)
- [Oracle9i Forms Developer の問題](#)
- [Oracle9i Reports Developer の問題](#)
- [Oracle9i Designer の問題](#)
- [Oracle9i Software Configuration Manager の問題](#)
- [Oracle9i Warehouse Builder の問題](#)
- [Oracle9i Discoverer の問題](#)
- [Oracle9i Business Intelligence Beans の問題](#)
- [Oracle9i XML Developer's Kit](#)
- [アクセシビリティの問題 \(Windows のみ\)](#)

インストールの問題

Windows System Files のインストールの実行

Windows NT に Oracle9iDS をインストールしているときに、Windows System Files に関するエラーが発生した場合は、「OK」をクリックしてエラー・ダイアログを閉じ、次の手順に従って Windows System Files のインストールを実行します。Windows System Files のインストールを実行しておかないと、Windows NT に Oracle9iDS をインストールできません。

Windows System Files のインストールを実行する手順は、次のとおりです。

1. 「終了」をクリックして、Oracle9iDS のインストールを終了します。
2. Oracle9i Developer Suite Disk 1 CD-ROM のルート・ディレクトリに移動します。
3. `wsf.exe` を実行します。

Windows System Files のインストールが実行され、その後システムが再起動されます。

4. Oracle9iDS のインストールをもう一度始めます。

Windows System Files のインストールの詳細は、『Oracle9i Developer Suite インストレーション・ガイド』を参照してください。

J2EE 開発版のインストールで設定されていない J2EE コンテナ

次の問題は、J2EE 開発版のインストール・タイプでのみ発生します。

- **問題:** ORACLE_HOME/j2ee にある J2EE コンテナが interMedia アプリケーションをサポートするように設定されていません。

対処方法: interMedia を使用可能にするには、J2EE コンテナの CLASSPATH に ORACLE_HOME/ord/jlib ディレクトリを追加します。

- **問題:** ORACLE_HOME/j2ee にある J2EE コンテナが SOAP アプリケーションをサポートするように設定されていません。

対処方法: SOAP サポートを使用可能にするには、`soap.ear` を JDeveloper から J2EE コンテナに配置します。ORACLE_HOME/j2ee/home/config にある `server.xml` で次の行をアンコメントします。

```
<web-site path=". /http-web-site.xml" />
```

- **問題:** ORACLE_HOME/j2ee の J2EE コンテナが HTTP リスナーとして設定されていません。

対処方法: ORACLE_HOME/j2ee にある J2EE コンテナを HTTP リスナーとして機能させるには、次の操作を行います。

1. ORACLE_HOME/j2ee/home/config/server.xml で、次の行をアンコメントします。

```
<web-site path=". /http-web-site.xml" />
```

2. デフォルトでは、リスナーはポート「8888」を使用します。ORACLE_HOME/j2ee/home/config/http-web-site.xml のポート番号を変更して、他のアプリケーションと衝突しないようにする必要がある場合もあります。

Oracle Net Configuration Assistant の実行の失敗

この問題は、Windows プラットフォームでのみ発生します。Business Intelligence、Rapid Application Development または Complete オプションをインストールしているとき、Oracle Net Configuration Assistant (NetCA) の実行に失敗します。NetCA の実行に失敗しても、インストールは正常に行われます。NetCA は、インストールが完了した後で、「スタート」メニューから手動で実行できます。

NetCA を手動で実行する手順は、次のとおりです。

1. インストールが完了したら、「終了」をクリックして、インストーラを終了します。
2. 「スタート」メニューから、次の手順に従って NetCA を実行します。

「スタート」⇒「プログラム」⇒「Oracle - ORACLE_HOME」⇒「Configuration and Migration Tools」⇒「Net Configuration Assistant」

ファイルへの書き込みエラー (Windowsのみ)

Oracle9iDS のインストールまたは Windows システム・ファイルのインストール時に、「Error in writing to file <ファイル名のフル・パス>.」というエラー・メッセージが表示されることがあります。

このようなエラーは、インストーラが読み取り専用属性が設定されたファイルを置換しようとしているために発生します。Windows のエクスプローラで、ファイルを検索します。「プロパティ」ダイアログの「読み取り専用」属性ボックスのチェックをはずし、「OK」をクリックします。次に、「再試行」をクリックしてファイルを置換します。

インストール時のパフォーマンス (オプション)

ウィルス保護プログラムの設定によっては、インストール時のパフォーマンスが低下することがあります。インストールを速くするには、Oracle9iDS をインストールする前に、ウィルス保護プログラムを停止しておく方法があります。

Oracle9i Developer Suite Documentation Library のインストール

英語版ドキュメントのインストール

英語版のドキュメントをインストールする場合、Windows および Solaris では、ドキュメント・ライブラリ CD-ROM からご使用のシステムにファイルをコピーするか、Oracle9i Developer Suite Disk 1 CD-ROM の Oracle Universal Installer を使用してファイルをインストールすることができます。

HP-UX および Linux では、ドキュメント・ライブラリ CD-ROM からご使用のシステムにファイルをコピーします。

Oracle9i Developer Suite Documentation Library をインストールする手順は、『Oracle9i Developer Suite インストレーション・ガイド』を参照してください。

サイレント・インストールと非対話型インストール

Oracle9iDS には、2通りの非対話型インストールがあります。

- **サイレント・インストール**: 実行する場合は、Oracle Universal Installer でレスポンス・ファイルを使用し、-silent フラグを指定します。インストール画面は表示されません。インストーラは、インストールからターミナル・ウィンドウおよび silentInstall.log ファイルへと出力を生成します。
- **非対話型インストール**: 実行する場合は、Oracle Universal Installer でレスポンス・ファイルを使用しますが、-silent フラグは指定しません。特定のウィンドウを選択して非表示にし、他のウィンドウのみを画面に表示できます。

レスポンス・ファイルは、通常はインストール・ダイアログで取得される問合せの応答を含む単純なテキスト・ファイルです。Oracle9iDS には、インストールのタイプによって異なるレスポンス・ファイルがあります。これらのファイルは、Oracle9iDS CD-ROM Disk1 に収録されています。レスポンス・ファイルは、サイレント・インストールまたは非対話型インストールに合わせて編集する必要があります。

プリインストール

サイレント・インストールまたは非対話型インストールを開始する前に、ハードウェア要件およびソフトウェア要件や『Oracle9i Developer Suite インストレーション・ガイド』に記載されたプリインストール・タスクを確認してください。

Windows NT では、Windows システム・ファイルのインストールが完了していることを確認してください。UNIX プラットフォームでは、oraInventory ディレクトリが存在していることを確認してください。UNIX マシンに初めて Oracle 製品をインストールする場合は、次のコマンドを入力してください。

1. su
2. mkdir /var/opt/oracle
3. echo "inventory_loc=/local_location/oraInventory" > /var/opt/oracle/oraInst.loc
/local_location/oraInventory は、ご使用の Oracle Universal Installer のインベントリ・ディレクトリです。
4. chown -R idsinstaller /var/opt/oracle
idsinstaller は、Oracle9iDS のインストールを実行するユーザーです。
5. exit

サイレント・インストールまたは非対話型インストールを実行する手順は、次のとおりです。

1. システムに合わせて選択したレスポンス・ファイルをコピーします。

レスポンス・ファイルは、Oracle9iDS CD-ROM Disk1 の stage/Response に収録されています。

Windows には、次のレスポンス・ファイルがあります。

- oracle.ids.toplevel.development.J2EE.rsp
- oracle.ids.toplevel.development.BI.rsp
- oracle.ids.toplevel.development.RAD.rsp
- oracle.ids.toplevel.development.Complete.rsp

UNIX には、次のレスポンス・ファイルがあります。

- oracle.ids.toplevel.development.Minimum.rsp
- oracle.ids.toplevel.development.Complete.rsp

2. テキスト・エディタを使用して、システムのレスポンス・ファイルを編集し、システム固有の情報を追加します。レスポンス・ファイルのパラメータのリストについては、この項で後述します。

変数の値を指定して、インストールをカスタマイズする必要があります。レスポンス・ファイルに含まれる各変数には、コメントが付けられています。コメントにより変数タイプを識別できます。値は次のフォーマットで指定してください。

```
string = "Sample Value"
Boolean=True or False
Number=1000
StringList=("StringValue 1", "StringValue 2")
```

<必須の値> として定められた値は、サイレント・インストールで指定する必要があります。

インストールを開始する前に、使用するレスポンス・ファイルの変数値からコメントを削除してください。

3. UNIX の場合: 次のコマンドを入力して、作業するマシンの表示設定を行ってください。

```
setenv DISPLAY your_machine:0.0
```

4. setup.exe または runInstaller が収録されている Disk1 のルートにナビゲートします。

5. コマンド・プロンプト・ウィンドウでインストーラを起動し、パラメータとして使用するレスポンス・ファイルのフル・パスを指定します。たとえば、次のように指定します。

- Windows の場合: setup [-silent] -responseFile <local_location>/oracle.ids.toplevel.development.<InstallType>.rsp
- UNIX の場合: runInstaller [-silent] -responseFile <local_location>/oracle.ids.toplevel.development.<InstallType>.rsp

不適切または不完全なレスポンス・ファイルを使用してサイレント・インストールまたは非対話型インストールを実行したり、インストーラでディスク領域不足などのエラーが発生すると、インストールが失敗します。レスポンス・ファイルを指定せずに非対話型インストールを実行する場合も、インストールが失敗します。

コンテキスト、フォーマット、型が不適切な変数の値は、値が指定されていないものとして扱われます。セクションの外にある変数は無視されます。

サイレント・インストールまたは非対話型インストールの成功や失敗は、installActions.log に記録されます。また、サイレント・インストールでは silentInstall.log が作成されます。このログ・ファイルは、インストール中に oraInventory または Inventory ディレクトリに作成されます。サイレント・インストールまたは非対話型インストールが失敗した場合は、インストールの実行中に残ったすべてのファイルを完全に削除する必要があります。

6. UNIX の場合: root.sh スクリプトを実行します。

root.sh スクリプトを実行する手順は、次のとおりです。

- ルート・ユーザーとしてログオンします。
- Oracle ホーム・ディレクトリで root.sh スクリプトを実行します。
- ルート・ユーザーを終了します。

- サイレント・インストールの場合：サイレント・インストールの完了後に root.sh スクリプトを実行する必要があります。
 - 非対話型インストールの場合：Oracle9iDS の非対話型インストール中に、インストーラが root.sh スクリプトの実行を要求します。「Finished running generic part of the root.sh script」や「Now product-specific root actions will be performed」というメッセージが表示されたら、ルート・ユーザーを終了してインストール画面に戻ってください。
- root.sh スクリプトにより、ORACLE_OWNER、ORACLE_HOME、ORACLE_SID の環境変数の設定やローカル bin ディレクトリのフル・パスが検出されます。デフォルトを受け入れたり、異なるローカル bin ディレクトリに変更したりできます。

レスポンス・ファイルのパラメータ

サイレント・インストールまたは非対話型インストールに使用するパラメータやその一般的な値は、次のとおりです。

```
UNIX_GROUP_NAME="dba" (またはインベントリ・ディレクトリに設定した UNIX グループ)
FROM_LOCATION="/<shiphome_location>/Disk1/stage/products.jar"
FROM_LOCATION_CD_LABEL="Oracle9i Developer Suite #.#.#.#" (注意: CD-ROM からインストールを実行する場合は、このパラメータに値を入力してください)

ORACLE_HOME="/<local_location>/oracle"
SHOW_SPLASH_SCREEN=true
SHOW_WELCOME_PAGE=false
SHOW_COMPONENT_LOCATIONS_PAGE=false
SHOW_CUSTOM_TREE_PAGE=false
SHOW_SUMMARY_PAGE=false
SHOW_INSTALL_PROGRESS_PAGE=true
SHOW_REQUIRED_CONFIG_TOOL_PAGE=false
SHOW_OPTIONAL_CONFIG_TOOL_PAGE=false
SHOW_RELEASE_NOTES=false
SHOW_ROOTSH_CONFIRMATION=false
SHOW_END_SESSION_PAGE=false
SHOW_EXIT_CONFIRMATION=false
NEXT_SESSION=false
NEXT_SESSION_ON_FAIL=false
SHOW_DEINSTALL_CONFIRMATION=false
SHOW_DEINSTALL_PROGRESS=true
LOCATION_FOR_DISK2="/<shiphome_location>/Disk1/stage/products.jar"
```

rwaddpage.sql を実行する前の手順

Configuration Assistant の実行に失敗して rwaddpag.sql スクリプトを流す必要がある場合は、その前に不完全にインストールされた状態になっている Oracle9i Reports Security ページとプロバイダを Oracle9iAS Portal から削除する必要があります。

Oracle9i Reports Security ページの削除手順:

1. Oracle9iAS Portal にログインします。
2. ビルダー・リンクをクリックします。
3. ナビゲータ・リンクをクリックします。
4. Portal 設計時ページの横のページ・グループのコンテンツ・リンクをクリックします。
5. ページ・リンクをクリックします。
6. Oracle Reports Security ページに対しての削除リンクをクリックします。

7. 削除される項目を充分確認し、正しければ確認ダイアログに対して「はい」をクリックします。これで Reports Security ページが削除されます。

Oracle9i Reports Security プロバイダの削除手順:

1. Oracle9iAS Portal にログインします。
2. ビルダーリンクをクリックします。
3. 構築リンクをクリックし、構築タブに移動します。
4. プロバイダ・ポートレットで、名前フィールドに ORACLE REPORTS SECURITY と入力します。
5. 削除をクリックします。これで Oracle Reports Security プロバイダが削除されます。

削除の問題

Oracle Universal Installer では全ファイルは削除されない

Oracle Universal Installer で削除しても、すべてのファイルとディレクトリは削除されません。ORACLE_HOME に残っているファイルとディレクトリは、手動で削除する必要があります。削除の詳細は、『Oracle9i Developer Suite インストレーション・ガイド』を参照してください。

Oracle9i JDeveloper の問題

ここに記述されているものに加え、別途提供されている『Oracle9i JDeveloper リリース・ノート』も参照してください。

SCM: Version History Viewer を使用してマージ操作を実行できない (Bug2227925)

問題点: Version History Viewer でマージ操作を実行した際に、次のエラーが発生する場合があります。
java.lang.IllegalArgumentException: setRoot: Null Filename

回避策: JDeveloper からではなく、Repository Object Navigator からマージ操作を実行してください。

Oracle9i Forms Developer の問題

別途提供されている『Oracle9i Forms Developer リリース・ノート』を参照してください。

Oracle9i Reports Developer の問題

別途提供されている『Oracle9i Reports Developer リリース・ノート』を参照してください。

Oracle9i Designer の問題

ここに記述されているものに加え、別途提供されている『Oracle9i Designer リリース・ノート』も参照してください。

オンラインヘルプの補足事項

Web PL/SQL Generator に関するオンラインヘルプにおいて、次のような補足事項があります。

問題点:

オンラインヘルプのトピック「ポートレットの生成の設定」での説明に不足する部分があります。

このトピック内の「Oracle Portal でのポートレット生成のセットアップ」の手順を行う前に、次の作業を実施してください。

Oracle Portal に付属の PROVSYNS.SQL スクリプトを SQL*Plus から実行します。

```
SQL> provsyns.sql <provider_schema>
```

ここで、<provider_schema> は、ポートレット生成を行うユーザーです。

問題点:

オンラインヘルプのトピック「セキュリティ・パッケージ例 wsgsso の使用」での説明に不足する部分があります。

このトピック内の「wsgsso を使用するには、次のようにします」の手順 7 を次のように読み替えてください。

7. Web PL/SQL アプリケーションを生成します。

アプリケーションを実行する前に、ユーザーを wsgsso_user 表に移入する必要があります。また、wsgsso_userresp 表にユーザーに対するデフォルトの "責任" も移入する必要があります。

ポータルへログインできるようにするためには、Single-Sign-On サーバーのユーザー名とパスワードも移入します (ユーザー名は大文字にしてください)。

wsgsso_userresp 表へ移入する "責任" は、SECRES 作業環境を使って設定します (デフォルトの責任は administrator です)。

オンラインヘルプに記載されていない Form Generator 作業環境について

問題点 :

Form Generator 作業環境 「Web Deployment」 カテゴリ内の 「RPT***」 作業環境に対する記述がオンラインヘルプには存在しません。

これは Oracle9i Forms および Reports の仕様変更で、RUN_PRODUCT 関数による呼び出しができなくなったことに対する代替策として Oracle9i Designer から追加された作業環境です。

RPTSVR

Reports モジュールを Form および Menu から起動するときに使用する Reports Server 名を指定します (240 バイト以内)。

RPTPTH

Reports モジュールを Form および Menu から起動するときに実行する Reports ファイル・パスを指定します (240 バイト以内)。

RPTDTY

Reports モジュールを Form および Menu から起動するときの Reports の宛先タイプを指定します。 Oracle9i Reports のモジュールを正しく呼び出すためには、この値は CACHE にしてください。

RPTDNM

Reports モジュールを Form および Menu から起動するときの Reports の宛先名を指定します (240 バイト以内)。

RPTFMT

Reports モジュールを Form および Menu から起動するときの Reports の宛先フォーマットを指定します。 Oracle9i Reports のモジュールを正しく呼び出すためには、この値は HTML にしてください。

RPTSUF

Form および Menu から起動される Reports モジュール名の接頭辞を指定します (240 バイト以内)。

Oracle9i Software Configuration Manager の問題

ここに記述されているものに加え、別途提供されている『Oracle9i Software Configuration Manager リリース・ノート』も参照してください。

従属ユーザーがリポジトリに接続すると、統計値情報ダイアログが表示される (Bug1361307)

これには、次の関連する 2 つの問題が報告されています。

問題点 :

Repository Administration Utility (RAU) で "統計値情報の算出" を実行したにもかかわらず、従属ユーザーがリポジトリに接続する度に次のメッセージが表示される場合があります。

「このリポジトリの統計値は計算されていません。リポジトリのパフォーマンスを改善するには、このリポジトリの所有者が Repository Administration Utility を使用してリポジトリ統計値を計算する必要があります。」

回避方法 :

リポジトリ従属ユーザーを作成する前に、リポジトリ所有者で RAU の "統計値情報の算出" を実行してください。

問題点 :

パブリック・シノニムの有効化を選択して、その際にプライベート・シノニムの削除を選択しなかつた場合、または、プライベート・シノニムの有効化を選択して、その際にパブリック・シノニムの削除を選択しなかつた場合、Repository Administration Utility (RAU) で "統計値情報の算出" を実行したにもかかわらず、従属ユーザーがリポジトリに接続する度に次のメッセージが表示される場合があります。

「このリポジトリの統計値は計算されていません。リポジトリのパフォーマンスを改善するには、このリポジトリの所有者が Repository Administration Utility を使用してリポジトリ統計値を計算する必要があります。」

回避方法：

パブリック・シノニムを有効化する際には、プライベート・シノニムの削除を選択してください。また、プライベート・シノニムを有効化する際には、パブリック・シノニムの削除を選択してください。

Dependency Manager: Forms の依存性の構築に失敗する (Bug2247364)

問題点：

Oracle Forms (.fmb ファイル) の依存性を構築しようとしたとき、次のエラーが発生する可能性があります。

グローバル・ネーム・ドメイン FORMS_GRAPHICS の読み込みに失敗しました

原因：グローバル・ネーム・ドメインが存在しません

対策：Dependency Manager を使用してネーム・ドメイン作成

回避策：

欠落しているグローバル・ネーム・ドメインを Dependency Manager を使用して手動で作成する必要があります。Dependency Manager を起動し、「ツール」⇒「ユーザー定義グローバル・ネーム・ドメインの管理」メニューを選択します。「追加」をクリックし、次に示す内容を入力します。

名前：FORMS_GRAPHICS

表示名：Forms Graphics

複数名：Forms Graphics

「OK」をクリックします。再度「追加」をクリックし、次に示す内容を入力します。

名前：FORMS_MODULE_PARAMETER

表示名：Forms Module Parameter

複数名：Forms Module Parameters

「OK」をクリックします。Forms (.fmb ファイル) の依存性の構築が可能になります。

Oracle9i Warehouse Builder の問題

別途提供されている『Oracle9i Warehouse Builder リリース・ノート』を参照してください。

Oracle9i Discoverer の問題

別途提供されている『Oracle9i Discoverer Administrator リリース・ノート』および『Oracle9i Discoverer Desktop リリース・ノート』を参照してください。

Oracle9i Business Intelligence Beans の問題

別途提供されている『Oracle9i Business Intelligence Beans リリース・ノート』を参照してください。

Oracle9i XML Developer's Kit

動作要件とシステム要件

Oracle9i XML Developer's Kit (XDK) リリース 1 (9.0.1) では、新たに次のサポートが提供されています。

- Oracle Schema Processor は、W3C Schema の正式な推奨事項に対応しています。
- XSQL Servlet は、Apache FOP 0.18 に対応しています。

一般的な問題とその対処方法

Oracle9i XML Developer's Kit (XDK) リリース 1 (9.0.1) では、新たに次のサポートとオプションが提供されています。

- SourceViewer Bean は、内部 DTD をサポートします。
- XSQL Servlet
 - 1 つの SQL 文内で、複数のパラメータ値の設定をサポートします。
 - <xsql:include-owa> にパフォーマンスを改善する新しいオプションが用意されています。
 - 新しい Airport SOAP Service デモが用意されています。
 - CLOB と VARCHAR2 列からの簡単な XML の挿入をサポートしています。
- XSQL Processor
 - XSLT Processor for Java は、スレッドセーフです。

ドキュメントの記載内容の誤り

『Oracle9i Application Developer's Guide - XML Release 1 (9.0.1)』の第 5 章と第 6 章の更新版は、次の OTN サイトから入手できます。

<http://otn.oracle.co.jp/>

アクセシビリティの問題 (Windows のみ)

この項には、Java ベースのアプリケーションやアプリットで使用するスクリーン・リーダーなど、Windows の補助テクノロジを必要とされる方のための情報が含まれています。このような補助テクノロジは一般にアクセシビリティと呼ばれており、米国では米国リハビリテーション法により、製品への統合が定められている機能です。アクセシビリティは日本語環境での動作を前提にしていないため日本語環境でのサポートは提供されません。これは Oracle9i Developer Suite の各コンポーネント単体においても同様です。

次にアクセシビリティを使用した場合の留意事項を示します。

自動実行の無効化

使用中のシステムで自動実行機能がサポートされている場合、Oracle9i Developer Suite Disk 1 を CD-ROM ドライブに挿入すると、自動実行ウィンドウが表示されます。この自動実行ウィンドウを無効にするには、CD-ROM を挿入した後に [Shift] キーを押します。または、自動実行ウィンドウが表示されたら、[ALT] を押しながら [F4] を押して、ウィンドウを閉じます。その後、次のいずれかの操作を実行します。

1. Oracle9iDS をインストールするには、CD-ROM のルート・ディレクトリにある実行可能ファイル `setup.exe` を探します。`setup.exe` プログラムを実行して、インストーラを起動します。
2. CD-ROM の内容を参照するには、Windows のエクスプローラを使用します。
3. Oracle9iDS に関する情報を得るには、ブラウザで CD-ROM 上のファイル `¥doc¥ids902welcome¥index.htm` を指定します。

access_setup.bat の実行

スクリーン・リーダーを起動する前に、`access_setup.bat` を実行します。

ファイル `access_setup.bat` は、Oracle9i Developer Suite CD-ROM Disk 1 のディレクトリ `¥install¥win32` にあります。

補助テクノロジの使用 (Windows のみ)

インストール時に補助テクノロジ (スクリーン・リーダーなど) を使用すると、インストールに極端に長い時間がかかることに注意してください。

Oracle Net Configuration Assistant にアクセスできない

Oracle Net Configuration Assistant (NetCA) にアクセスするには、製品版の Java Access Bridge 1.0.2 を、ご使用のシステムの JRE 1.1.8 の場所にインストールする必要があります。

インストール時に NetCA が自動的に起動した場合は、[ALT] を押しながら [F4] を押して、そのダイアログを取り消します。次に、インストーラを終了します。この操作は、Oracle9iDS のインストールには影響せず、NetCA ツールを停止させるだけです。

NetCA を起動する前に、次の手順を実行します。

1. Java Access Bridge 1.0.2 を、ご使用のシステムの JRE 1.1.8 の場所にインストールします。インストールの詳細は、『Oracle9i Developer Suite インストレーション・ガイド』を参照してください。
2. 環境変数を設定します（次は長い 1 行です）。

```
ORACLE_OEM_CLASSPATH=D:\Program  
Files\Oracle\jre\1.1.8\lib\access-bridge.jar;D:\Program  
Files\Oracle\jre\1.1.8\lib\jaccess.jar
```

(D:\Program Files は、プログラム・ファイル・ディレクトリの場所になります)

3. スクリーン・リーダーを再起動します。
4. 次の手順に従って、「スタート」メニューから NetCA を起動します。

「スタート」⇒「プログラム」⇒「Oracle - ORACLE_HOME」⇒「Configuration and Migration Tools」⇒「Net Configuration Assistant」

製品の削除

製品 CD-ROM からの Oracle Universal Installer の使用

UNIX プラットフォームでは、Oracle Universal Installer (OUI) がインストールの一部としてインストールされている場合と、インストールされていない場合があります。Oracle Universal Installer がインストールの一部としてインストールされていない場合に製品を削除するには、その製品のインストール用 CD-ROM から Oracle Universal Installer を実行する方法以外ありません。Oracle Universal Installer を起動する手順は、『Oracle9i Developer Suite インストレーション・ガイド』を参照してください。

コンポーネントを削除できない

『Oracle9i Developer Suite インストレーション・ガイド』の説明のとおり、製品全体（たとえば、Oracle9i Developer Suite または Oracle9i Application Server）を削除できますが、製品の個別のコンポーネント（たとえば、Oracle9i Forms Developer または Oracle9iAS Containers for J2EE）のみを削除することはできません。Oracle Universal Installer では、Oracle9i Developer Suite コンポーネントを個別に選択して削除することはできません。

